

学校教育目標	「自主」「協働」「創造」の理念を身に付けた生徒の育成
育成を目指す資質・能力	問題発見・解決能力、協働性、学んだことを活用する力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 各種調査において、知識・活用共に概ね全国・大分県平均を上回っている。学年が下がるにつれて問題順に正答率が下がる傾向から、時間配分等を指導することも必要。基本的な知識や計算等が高い正答率である一方、考察したり関連づけたりするものや、説明・記述する場面での誤答や無回答が目立った。問題を正しく理解していないための誤答も見られた。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 <small>【R3年全国学力・学習状況調査より】</small> 授業時間外での家庭や塾等での学習時間は全国平均を大きく上回っている。また、課題解決への意識や意欲、話し合い活動等も積極的にを行っているとの回答が平均以上。ICT機器等の活用状況では、大きく平均を下回っている。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ができています・・・80% ・小テストや単元テストで、学力が定着する実感がある・・・78% ・テスト前の補充学習や、個別の指導などで先生に教えてもらっている・・・53% ・授業中に自分の思いや考えを伝えることができています・・・69% 	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 授業で「今日の学習」をはじめとする4枚のプレートと、ユニバーサルデザインを意識した「本時の流れ」を活用し、思考の整理ができる授業展開を目指す。教職員アンケート「授業のめあて」「ふりかえり」を明示するなど、分かる授業の工夫をしている。・・・97% 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、自学ノートの取り組みに月別学習表を配付する。また、教科ごとの貼り付けプリントで復習に取り組むページと生徒自身が考えて取り組むページに分けて行う。・・・実施率各学年100% ・授業の始まりや朝自習を活用し、計画的に小テストや単元テストを行う。 	

学力に関する達成指標

- ・王子中学学習スタイルを浸透させた1時間完結型の授業と、家庭学習をリンクさせた学習を仕組んでいくことで、生徒が意欲的に授業に参加し、2極化解消のための基礎基本はもとより、活用力を身に付けたと実感できるようにする。→「学力が定着する実感がある」・・・90%以上
- ・定期テストにおける正答率30%以内の生徒の割合が10%以内
- ・定期テスト・学力テスト等における記述式問題における無回答者の割合10%未満かつ正答者の割合80%以上

